

日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.12

冬の寒さや降雪が 経済に与える影響

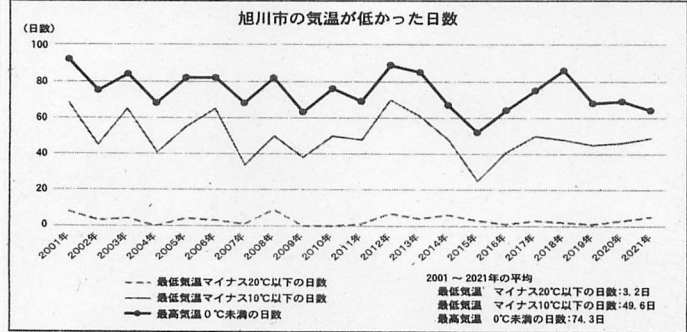
旭川で初めての冬を過ごしました。まだ冬は終わっていませんが、最高気温が連日プラスを記録するなど、寒さもだいぶ和らぎましたので、自分では何とか無事に一冬を越せたのではないかと思っています。

気象庁のデータをみると、この冬、旭川で最低気温がマイナス10℃以下となった日数(3月17日まで)は、49日で、昨年の46日より幾分多いですが、2001年シーズン(以下、暦年の記載は前年10月から5月までの冬季期間を指します)以降の平均である49.6日とほぼ同じです。マイナス20℃以下となった日数は、5日で、これは14年(6日)以来の水準です。こちらは01年以降の

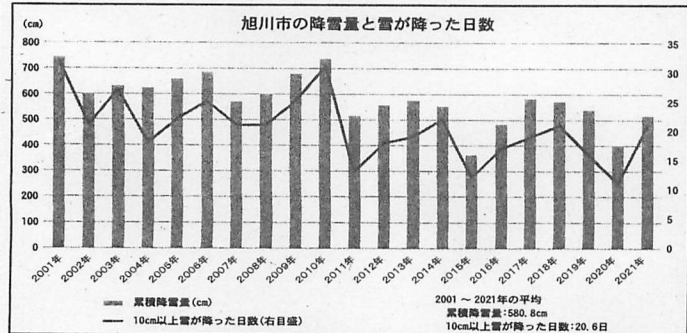
平均である3.2日を上回りました。この冬は寒かったです。この辺りにも原因があるかもしれません。一方、降雪量はどうか。雪が1日10cm以上降った日数(3月17日まで)は、21日、昨年の11日を大きく上回っています。た

平均である3.2日を上回りました。この冬は寒かったです。この辺りにも原因があるかもしれません。一方、降雪量はどうか。雪が1日10cm以上降った日数(3月17日まで)は、21日、昨年の11日を大きく上回っています。た

旭川で初めての冬を過ごしました。まだ冬は終わっていませんが、最高気温が連日プラスを記録するなど、寒さもだいぶ和らぎましたので、自分では何とか無事に一冬を越せたのではないかと思っています。



(注)各年とも前年からの実績。2021年は3月17日まで。資料出所:気象庁



(注)各年とも前年からの実績。2021年は3月17日まで。資料出所:気象庁

02℃は上回っていましたが、01年以降の平均の9割程度で、今後、雪が降る可能性を考慮しても平均を上回るのには難しいです。結局、今冬は、暖冬だった昨年と比べると気温が低めで降雪量も多かつ

たのですが、ここ20年で見ると、マイナス20℃以下となった日数がやや多い程度で、気温、降雪量ともほぼ平均並みであったと言えます。さて、こうした厳しい冬が経済に与える影響については、どのように考

えればよいでしょうか。1つは、生活を維持するための費用が多くなることです。まず、灯油などによる暖房、住宅の高気密化・高断熱化、防寒用の服や靴、車の寒冷地用装備、雪かき・雪下ろし

の穴埋めになります。もう1つは、寒さや雪を利用したサービス・製品の創出・提供ができることです。旭川市内には、雪質の良いスキー場があり、そこにやって来るスキー客の飲食や宿泊需要が見込めます。今年はお

このように考えると、冬の寒さや雪は、経済にとって、必ずしもマイナスではありませんが、むしろ、極端な寒さや暖冬、小雪や多雪により、平年を大きく超えて需要が変動することが問題です。その意味で、今冬の当地

排雪費を確保したうえで、速やかに作業ができるような体制を整えています。これは、相当な費用負担になりますが、一方でこうした商品・サービスを提供して、飲料水や農業・工業用水などとして利用されます。豊かな森林は、美しい自然景観を形作るだけでなく、家具の材料となる良質な木材も提供してくれます。

【大賀健司(おがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務局企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。